

松崎遺跡地元説明会資料

2008年(平成20年)12月23日(火・祝)



調査主体



(財) 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

<http://www.maibun.com>

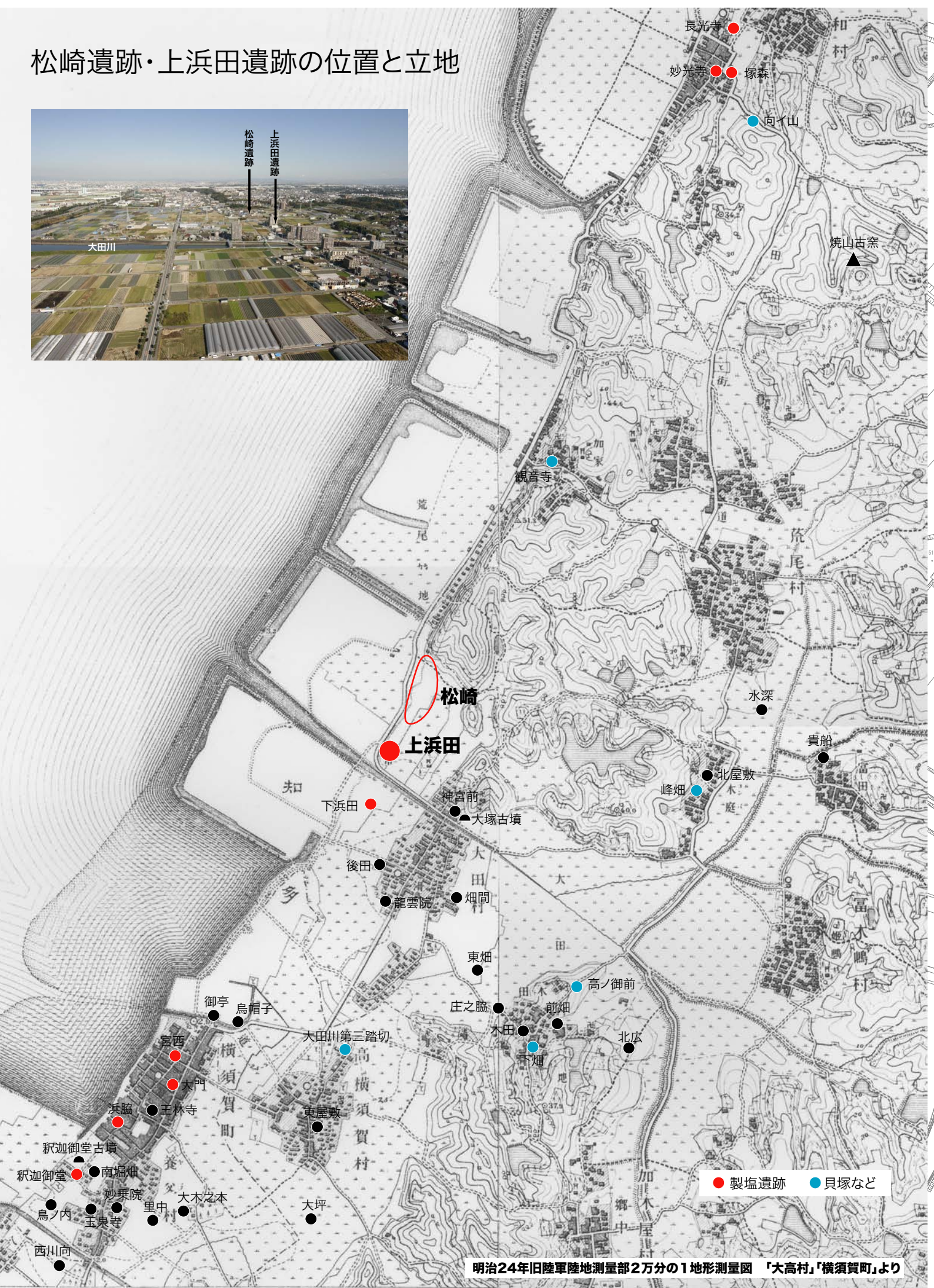
調査支援



shimada

株式会社 島田組

松崎遺跡・上浜田遺跡の位置と立地

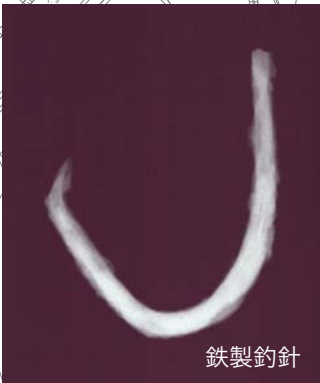


明治24年旧陸軍陸地測量部2万分の1地形測量図 「大高村」「横須賀町」より

松崎遺跡の調査



08Aa区
古墳時代の製塩土器を多く出土します。製塩土器は脚部のみが目立ちます。

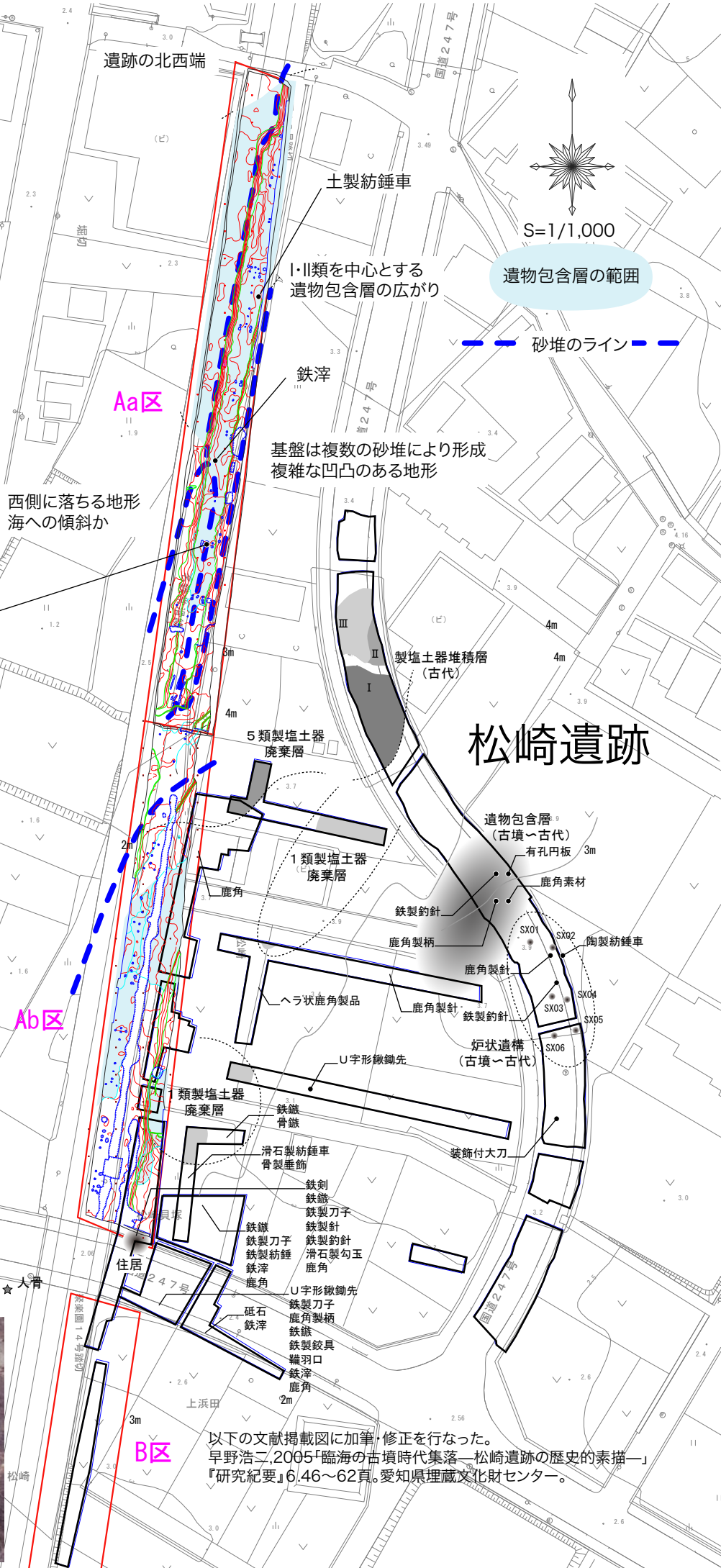


鉄製釣針



08Ab区
固くしまった黒色砂と貝層の堆積。古代の包含層の下に、古墳時代の包含層が認められます。

古代の遺物包含層
貝層
古墳時代の遺物包含層



松崎遺跡

以下の文献掲載図に加筆・修正を行なった。
早野浩二、2005「臨海の古墳時代集落—松崎遺跡の歴史的素描—」
『研究紀要』6,46～62頁。愛知県埋蔵文化財センター。

まつぎいせき 松崎遺跡の調査について

1. 調査の経緯

名古屋鉄道常滑線連続立体交差事業に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて、発掘調査を実施しています。調査は、松崎遺跡・上浜田遺跡を通して行なっており、2遺跡合わせた調査面積は6,200㎡、期間は平成20年10月～平成21年3月を予定しています。現在は松崎遺跡の調査を継続中で、塩作りなどを行なった当時の地形および活動の痕跡が明らかになりました。

2. 立地と環境

松崎遺跡・上浜田遺跡は、東海市大田町の伊勢湾岸に面した、最も海側の浜堤（砂堆）上に位置しています。この遺跡は、古墳時代～古代にかけての製塩遺跡で、日本列島で初めて「藻塩焼く」という塩作りが実証的に証明された遺跡としても全国的に著名です。これまでに、昭和51年7～8月と同年12月に東海市教育委員会が、昭和63年度に愛知県埋蔵文化財センターが調査を行っており、また平成16年には東海市教育委員会が遺跡範囲確認調査を行っています。

3. 調査成果

今回の調査によって、塩作りなど当時の人々が行なったさまざまな活動の跡と、松崎遺跡が立地している砂堆の様子がより明らかとなりました。

松崎遺跡は一つの大きい砂堆の上にあるのではなく、海岸線に沿って形成された、いくつか集まった砂堆の上に形成されていたことが判明しました。当時は高低のある極めて複雑な地形を適宜利用しながら塩作りなどの活動を行っていたようです。

活動の跡は、遺物を含む層（遺物包含層）として確認できます。この範囲が北側と南側の大きく二カ所あり、製塩土器をはじめとする出土遺物の様子が大きく異なるようです。北側の遺物包含層は、古墳時代の製塩土器が多く出土し、脚の部分がまとまって出土していることが特徴です。層の堆積も緩く、最下層から古代の遺物が出土することから、活動終了後に付近にあった包含層が二次的に堆積したようです。一方、南側の遺物包含層では、上から古代の包含層、下から古墳時代の包含層が見つかります。貝殻や炭化物を多く含むなど、北側とは様子が大きく異なります。遺物包含層は、火を使って塩作りを実際に行なった場であったり欠損した製塩土器の捨て場であったり、さまざまな活動の結果により形成されたものと考えられます。

出土遺物は、塩作りを行なう時に使われた製塩土器と呼ばれる素焼きの土器が多数を占めます。その他、古墳時代から古代の須恵器・土師器甕や古代の灰釉陶器が出土しており、漁網錘も多く出土しています。また、土製紡錘車や鉄製釣針も1点出土しました。

また、この遺跡では、貝殻を多く含む層が多数あるのが大きな特徴です。ハマグリ・マガキが多く、ハイガイ・サルボウ・ツメタガイ・アカニシ・ウミニナが見つかり、アカニシは食用に壊された状態で出土しています。また、鹿角も出土しており、当時の食用・動物性素材の利用の様子を知る良好な資料も出土しています。